

令和 2 年 4 月 17 日

教 育 長 様

研究コース	
グループ研究 A	
校園コード（代表者校園の市費コード）	
661456	

代表者 校園名： 大阪市立今里小学校
 校園長名： 山口 祐子
 電話： 06-6981-8800
 事務職員名： 粟田 有加
 申請者 校園名： 大阪市立今里小学校
 職名・名前： 主務教諭 藤井 優美子
 電話： 06-6981-8800

令和 2 年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	グループ研究 A	研究年数	継続研究（2年目）
2	研究テーマ	I C T を活用し、共に学び共に育つ授業を創造する ～情報活用能力育成を目指した主体的・対話的で深い学びの実践～			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を端的に記載してください。</p> <p>文部科学省が「G I G A スクール構想」を掲げ、2023年度には児童一人一台にパソコンなどの端末が整備される予定である。新学習指導要領でも、言語能力、問題解決能力と並んで、情報活用能力を学習の基盤となる資質・能力として育成することが求められ、society5.0の時代を生きていく児童にとって、情報活用能力の育成は必要不可欠なものである。</p> <p>○年間を通して I C T を児童が主体的に活用する授業の推進 ○教科等横断的な単元を設け、児童が主体的に情報を収集、取捨選択、分類整理し、発表することができるパフォーマンス課題の設定 ○「習得・活用・探求」の学習の流れから、協働してプレゼンテーション資料を作成し、互いの発表を聞きあったりする過程で、他学年や他校、地域の方などへの発信することによる対話的な学習をさらなるに発展 ○自分の考えや意見を他者と比較することで、自分の考えや意見を確かなものにする児童の深い学びの実現</p>			
4	研究内容	<p>継続研究は、前年度の成果と課題を分析した内容を踏まえて記載してください。</p> <p>昨年度の研究から、「I C T 活用年間計画」を作成することができた。本校のがんばる先生支援研究発表会に参加された学校からも要望があり、活用していただけるよう配信するなど、大阪市に広めることができた。また、キーボード入力練習アプリの活用により、児童のキーボード入力の速度が飛躍的に伸びた。</p> <p>本年度の課題は、教科書が改訂したことをうけ、昨年度作成した「I C T 活用年間計画」の再検討をする必要がある。さらに大阪市の現状に合わせたチェックリストを活用した児童の情報活用能力の推移も見ていただきたい。</p> <p>○情報活用能力育成の視点にたった、主体的で対話的な深い学びを実現する授業改善と、指導力・授業力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年で、情報活用能力を育成するために効果的な単元を教科等横断的に設定し、児童が主体的に取り組めるパフォーマンス課題を工夫（地域との交流、地域への提案、他学年との交流等）する。 ・大阪市小学校教育研究会視聴覚部が作成した「情報活用能力到達目標一覧表」をもとに効果的な指導を実践していく。 ・近畿 I C T 教育研究会作成の「情報活用能力チェックリスト」を活用し、児童の情報活用能力の現状を把握するとともに、年間を通して児童の情報活用能力の推移をみながら、チェックリストの低い項目を向上させていくにはどのような活動が効果的かを探る。 <p>○プログラミング教育の系統立てた指導のための計画作成と実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラミング教育の「順次」「反復」「分岐」の3観点と、「アンプラグド」「プログラミングソフト」「ロボット等」の組み合わせ考え、系統的な年間計画を作成する。 <p>○情報活用能力の3観点（情報活用の実践力・情報の科学的な理解・情報社会に参画する態度）を意識した、I C T 年間計画の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度作成した I C T 活用年間計画をもとに、新しい教科書に対応した I C T 活用年間計画を作成する。 ・学校行事や社会見学、特別活動等でも I C T を活用する計画をたて、授業以外の学習でも活用するようしたり、他学年と縦のつながりを計画に盛り込んだりする。 <p>○児童の I C T 活用スキルの向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の I C T 活用スキルを向上させるため、昨年度活用したキーボード入力練習用アプリを引き続き活用していく。 ・キーボード入力検定を設ける等、児童が積極的に取り組めるよう指導方法を工夫する。 			

		日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。
5	活動計画	<p>4月 研究テーマ・研究の柱・実践内容・見込まれる成果等の検討 研究推進全体研修会</p> <p>5月 研究授業年間計画作成（公開授業に向けた授業者、指導案のひな型、研修日程・内容等） 「情報活用能力チェックリスト」実施・分析（第1回）</p> <p>6月 情報教育校内研修会</p> <p>8月 研究大会等へ参加（参加後、校内研修にて周知、研究内容に活用）</p> <p>11月 放送教育・視聴覚教育全国大会参加（参加後、校内研修にて周知、研究内容に活用） 授業研究協議会（研究成果・課題について協議し改善方法を検討 園田学園女子大学 堀田博史先生招聘）</p> <p>10月 「情報活用能力チェックリスト」実施・分析（第2回）</p> <p>1月 児童への「情報活用能力チェックリスト」実施・分析</p> <p>2月 「情報活用能力チェックリスト」実施・分析 研究発表会（参加者へアンケート） 公開授業・研究発表を行い、本年度の成果を発表 指導講評・講演会（園田学園女子大学 堀田博史先生招聘）</p> <p>3月 教員へのアンケート実施 来年度へむけて、本年度の成果と課題を分析</p>
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、見込まれる成果を端的に記載し、その成果について、客観的な指標により必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】 児童が主体的にＩＣＴを活用し、協働的な学びや言語活動を行うことにより、「情報を適切に活用する能力」、「自分で考え判断する力」、「自分の考えを豊かに伝える力」を身につけることができる。 《検証方法》 経年調査・校内アンケートにおける、「学級の友だちと話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができますか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を前年度より向上させる。</p> <p>【見込まれる成果2】 児童が主体的にＩＣＴを活用し、協働的な学びや言語活動を行うことによる児童の情報活用能力向上 《検証方法》 児童に対し情報活用能力チェックリストを年度当初、年度末に実施し、全学年とも平均ポイントを10%向上させる。</p> <p>【見込まれる成果3】 教職員のＩＣＴ活用スキルや授業力の向上 《検証方法》 教員のＩＣＴ活用指導力アンケート（文科省「学校情報化調査」）において、総合平均ポイントが3.5以上となるようにする。</p> <p>【見込まれる成果4】 《検証方法》</p>

研究コース グループ研究A
代表校園 大阪市立今里小学校

代表校校園コード

校園長名

661456

山口 祐子

6	見込まれる成果とその検証方法	【見込まれる成果5】 《検証方法》				
		【見込まれる成果6】 《検証方法》				
7	研究成果の共有方法	◆研究発表【必須】 報告書提出日（令和3年2月22日）までに必ず行ってください。 ○研究発表の日程・場所（予定） <table border="1"><tr><td>日程</td><td>令和 3 年 1 月 27 日</td><td>場所</td><td>大阪市立今里小学校</td></tr></table>	日程	令和 3 年 1 月 27 日	場所	大阪市立今里小学校
日程	令和 3 年 1 月 27 日	場所	大阪市立今里小学校			
◆代表校園HPでの共有【必須】 他の共有方法を計画している場合は記載してください。						
8	代表校園長のコメント	本研究は、「がんばる先生支援」の2年次研究である。昨年度から「ICT活用推進校」としてICT推進リーダーを中心に日常的なタブレット端末の活用に全教員で取り組み、児童の情報活用力の向上も図られ大きく成果が上がった。今年度は、キーボード入力等のスキルの向上、プログラミング教育にも取り組みを進める。研究推進にあたっては、昨年に引き続き園田学園女子大学の堀田博史教授に指導いただくこととしており、堀田教授にも快諾いただいている。主体的・対話的で深い学びのための授業改善と、基礎学力の向上のためのICT活用による個に応じた学習指導を車の両輪として、取り組みを進めていく。				

※上記の内容をA4判3ページ（文字は10ポイント）厳守で作成し、令和2年4月17日（金）

までに、大阪市教育センター「がんばる先生支援」担当まで提出してください。

令和 2 年 4 月 17 日

教 育 長 様

研究コース
グループ研究 A
校園コード（代表者校園の市費コード）
661456

代表者 校園名： 大阪市立今里小学校
 校園長名： 山口 祐子
 電 話： 06-6981-8800
 事務職員名： 粟田 有加
 申請者 校園名： 大阪市立今里小学校
 職名・名前： 主務教諭 藤井 優美子
 電 話： 06-6981-8800

令和 2 年度 「がんばる先生支援」研究支援 経費執行申請書

◇「がんばる先生支援」として、経費を次のとおり申請します。

研究テーマ	I C T を活用し、共に学び共に育つ授業を創造する ～情報活用能力育成を目指した主体的・対話的で深い学びの実践～
-------	--

費 目	金 額	備 考
8 旅費	30,000	
教育センターでの経費執行	30,000	①
7 報償費	110,680	
10 需用費	7,320	
	0	
11 役務費	0	
	0	
13 使用料及賃借料	0	
17 備品購入費	501,000	
	0	
18 負担金、補助金及交付金	51,000	
学校での経費執行	670,000	②
合 計	700,000	①+②

研究活動にあたって、どのような目的で、どのような物品を購入するのか、主なものを記述すること。

【旅費】研究大会参加旅費

【報償金】（大学教授）研究活動への指導講師

（I C T 活用授業講師）授業支援・機器メンテナンス

【消耗品費】（ケーブル）特別教室用

【備品購入費】（授業用 P C ・ 大型テレビ）特別教室用

【会費】（視聴覚全国大会）大阪大会に全員参加

（研究会）他地区の研究会に参加

内訳明細

(R02 様式 2-2)

研究コース

グループ研究A

代表校校園コード

661456

代表校園

大阪市立今里小学校

校園長名

山口 祐子

費目	内 容	数量	単 価	金 額	予定月
8 - 5 普通旅費	研究大会参加	3	10,000	30,000	
	費 目 小 計			30,000	
7 - 1 報償金	研究会講師（大学教授）	3	23,080	69,240	
	ICT活用授業講師	4	10,360	41,440	
	費 目 小 計			110,680	
10 - 1 消耗品費	ケーブル	2	3,660	7,320	
	費 目 小 計			7,320	
10 - 4 印刷製本費					
	費 目 小 計			0	
11 - 1 通信運搬費					
	費 目 小 計			0	
11 - 5 筆耕翻訳料					
	費 目 小 計			0	
13 - 1 使用料					
	費 目 小 計			0	
17 - 2 校用器具費	授業用パソコン	1	281,000	281,000	
	大型テレビ	1	220,000	220,000	
	費 目 小 計			501,000	
17 - 3 図書購入費					
	費 目 小 計			0	
18 - 5 会費	視聴覚教育・放送教育全国大会参加費	12	3,000	36,000	
	研究大会 参加費	3	5,000	15,000	
	費 目 小 計			51,000	
	合 計			700,000	

令和 2 年度 「がんばる先生支援」研究支援 名簿

代表者	校園名 : 大阪市立今里小学校	校園長名 : 山口 祐子
申請者	校園名 : 大阪市立今里小学校	職名・名前 : 主務教諭 藤井 優美子

番号	所 属 校 園 名	職 種	名 前
1	大阪市立今里小学校	校長	山口 祐子
2	大阪市立今里小学校	教頭	川本 直也
3	大阪市立今里小学校	首席	田原 健之介
4	大阪市立今里小学校	主務教諭	藤井 優美子
5	大阪市立今里小学校	教諭	篠木 萌
6	大阪市立今里小学校	教諭	金 玲 佳
7	大阪市立今里小学校	主務教諭	李 貴 子
8	大阪市立今里小学校	教諭	梶野 るい
9	大阪市立今里小学校	主務教諭	池内 一尊
10	大阪市立今里小学校	主務教諭	辻 清可
11	大阪市立今里小学校	主務教諭	瀬古 裕代
12	大阪市立今里小学校	教諭	安藤 七美
13	大阪市立今里小学校	養護助教諭	枡 沙弥佳
14	大阪市立今里小学校	非常勤講師	荒井 由美子
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			